

名前 \_\_\_\_\_

**理科**

基本メニュー（☆☆☆）…必ずやりましょう。

	チェック
① 授業用テキストを読み直す 太字になっている部分は書いて覚えるとよい。	
② 宿題用テキストの基本問題A	
③ 宿題用テキストの基本問題B	
④ 宿題用テキストの復習問題	
⑤ 確認テスト復習用を解く。	

応用メニュー（☆☆）…基本メニューが全て終わって余裕があれば、やりましょう。

	チェック
① 宿題用テキストの練習問題A	

発展メニュー（☆）…他の教科の宿題が終わって、さらに余裕があれば、やりましょう。

	チェック
① 宿題用テキストの練習問題B	

担当より一言

夏期講習では、授業内でも問題演習を多く扱っていきます。まずは授業内で扱った問題を中心に復習をしていきましょう。

第24回の月では、何時に、どの方角に、どの形の月が見えるのかが最重要です。丸暗記ではなく、図を見ながら考えられるようにしていきましょう。

第25回の星では、各季節ごとの代表的な星座と一等星をセットで覚えること、日周運動・年周運動の計算の手順をマスターすることを意識してください。

日周運動…地球の自転が原因で、1時間で15度動いて見える。

年周運動…地球の公転が原因で、1か月で30度動いて見える。

この2つを使って問題を解いていくので、確実に覚えてください。

第26回のもの燃焼その1では、燃焼に関する知識事項の確認が中心です。

入試演習や宿題についても他の回よりも取り組みやすいはずなので、問題演習を通して知識を固めてしまいましょう。

第27回のもの燃焼その2では、ものが燃焼したときの重さの変化に関する計算に取り組みます。

ポイントは基準となる数字を書き出して、そこから何倍になっているか比例計算をしていくことです。

この回は授業用テキストに授業で扱った問題をもう1度解くためのページがありますので、基本メニューとしてその問題に取り組みましょう。

第28回、第29回は生物・地学の総合演習となっています。

宿題として取り組む際の優先順位は以下の通りです。

①授業で扱った問題で間違えたものの解き直し

②授業で扱っていない問題

夏期講習では、計算が絡む問題に多く取り組んでいきます。1回ではなかなか手順が定着しないものが多いので、夏休みの後半に再度前半の内容を復習することをお勧めします。

※まとめテストの範囲は第24回～第29回になります。